



宮城学院広報
MIYAGI GAKUIN

vol.
158
2018.2

Glory to God

巻頭言

Girls, be ambitious!

学院長 嶋田 順好

特集

宮城学院での思い出

～旅立ちの時を迎えて～

MG TOPICS

卒業生紹介

デディオニシオ 希さん
佐藤 博美さん

タイトル「Glory to God」は宮城学院の校歌「天にみ栄え」の英訳であり、本院のキリスト教精神を象徴する言葉。旧東三番丁キャンパスの講堂内にも、この言葉が掲げられていた。

Girls, be ambitious!

学院長 嶋田 順好

Boys, be ambitious! 「青年よ、大志を抱け」とは、言うまでもなく札幌農学校初代教頭のウィリアム・スミス・クラークが、8カ月の短い任務を終えて帰国する際に、札幌近郊の島松まで送りにきた教え子たちに向かって馬上から叫んだ惜別の辞です。小学生の頃、朝礼で校長先生からしばしばこの言葉を聞かされたこともあり、今でも私の心に深く刻まれています。

実は、これに続く言葉として「キリストにありて」とか、「この老人のように」など諸説が流布されています。最も長いものではジョージ・M・ローランド宣教師が『北大略史』（大正3年12月1日）に寄せた「青年よ、大志を抱け。大志を抱くのは金銭や利己的な栄達、人呼んで名声というはかないもののためではない。知識、正義、人心の向上のために、また人として当然そなえていなければならないことをすべて成し遂げるために大志を抱きなさい」というものです。

史実としてはクラーク博士から直接薫陶を受けた一期生の大島正建が伝えている「この老人のように」が、一番信憑性が高いと言えるでしょう。しかし、「イエスを信ずる者の契約」に象徴されるように、たった8カ月の短期間ではあっても、札幌農学校の学生たちに対して与えた博士の甚大な人格的感化

を思う時、ローランド宣教師の伝えた文章は、表層的な史実性を超えBoys, be ambitious!と告げた博士の思いの真実を、最も適切に伝えている文章と言えるのではないのでしょうか。それはまた「神を畏れ、隣人を愛する」ということをスクール・モットーに掲げる宮城学院に連なる者たちが、心に刻むべき言葉と言えるでしょう。

ジェンダー格差指数というものがあります。経済参画、政治参画、教育、健康の4分野14項目で各国の男女の平等度を指数化したものです。「世界経済フォーラム」が2017年11月2日に発表した結果によれば、日本は世界144か国のなかで114位となり、過去最低であった前年の111位よりもさらに後退してしまいました。男女共同参画社会の実現が謳われるようになって久しい歳月が経過していますが、その現実はまだ心もとないものと言えます。それだけに宮城学院で学び、宮城学院を巣立っていく皆さんには、この現実を変革する一粒の麦となつてほしいと願わずにはいられません。ですからこの時、私から卒業生の皆さんに贈る言葉は、クラーク博士が願った意味においてGirls, be ambitious!ということにほかなりません。ご卒業、おめでとう。



MG TOPICS

大学

＊宮城学院女子大学×作並温泉旅館組合 「第3回作並スイーツフェスティバル」開催

震災後に客足の減少が見られた作並温泉を活性化するため、作並温泉旅館組合と本学とが共同で開催する「第3回作並スイーツフェスティバル」が、昨年11月23日（木・祝）岩松旅館で行われました。

過去2回は学生自身が考案したレシピを自分たちで作ってきましたが、今回は学生たちが考案したレシピを基に、岩松旅館・一の坊・グリーングリーンの料理長やシェフたちが腕によりをかけてスイーツ3種を作成。547名の応募から抽選で選ばれた100名の方々が、試食・審査を行いました。

今回は「仙台味噌どら」「さつまいもモンブラン」「定義山三角揚げのミルフィーユ」の中から最も得票の多かった「さつまいもモンブラン」が、作並温泉の各旅館において1年間提供されることになりました。

イベントの実施にあたり、主に現代ビジネス学科の2年生が当日運営や準備等を担当し、食品栄養学科の1年生がレシピ開発を行いました。スイーツの完成に至るまでには何度も試作と試食を繰り返し、当日は様々な年齢のお客様の生の声を聞くことで、1つの商品を作り上げることの喜びや苦労を経験する貴重な機会になりました。今後も作並温泉の活性化に向けた取り組みを継続していきます。



＊「音楽科コンサート」開催！

昨年11月12日（日）、「音楽科コンサート」が開催されました。前半は大学講堂で、オーディションにより選抜された学生ソリストたちが音楽科オーケストラと協演。モーツァルトの「フルート協奏曲」、《フィガロの結婚》からのアリア2曲と続き、最後はベートーヴェンの「ピアノ協奏曲 第1番」を楽章ごとに独奏者を交代させながら演奏しました。

後半は会場を礼拝堂に移して、フォーレの「レクイエム」全曲。合唱は女声合唱版、オーケストラは小編成ヴァージョンというシンプルな組み合わせでしたが、独唱、合唱、オーケストラがパイプオルガンの音色と融け合って、精妙に響き渡りました。スタンドグラスが配された静謐な空間で宗教作品を演奏することは、学生たちにとって特別な時間となりました。

音楽科は2016年度の学科改組に伴い、器楽、声楽、作曲の3コース制となり、専攻楽器も大幅に拡充し、充実した実技教育を掲げてきました。コンサートでは、丁寧な個人指導に加えて、アンサンブルに力を入れてきた音楽科の教育の一端を実感いただけたのではないかと思います。コンサートにお越しいただいた皆様、コンサートの実現のために貴重な時間を割いてご協力くださったエキストラや職員の皆様、本当にありがとうございました。



宮城学院での思い出 ～旅立ちの時を 迎えて～



こども園 年長組
保護者代表
千葉 夏子さん

森のこども園での生活は、いつも先生方の温かい目に見守られていたと感じています。子育てをしていると、とにかく子どもに厳しく接しがちになってしまいますが、先生方は子どもたちの個性を認め、伸ばし、自主性を育ててくださいました。この場をお借りして御礼申し上げます。

こども園の一大イベントである降誕劇では、年少、年中、年長と毎年みんなで話し合って役割を決めるところが大きな特徴ですが、どの役割を担うことになっても一生懸命力を合わせ“みんなで劇を成功させよう!”という雰囲気が盛り上がっていきます。時には練習で上手くできずに涙する場面もあるのですが、先生方の慰めや励ましが大きな支えとなり、本番ではいつも素晴らしい降誕劇を見せてくれました。演技だった子どもたちの誇らしいような達成感に満ちた表情がいつまでも忘れられません。

この先子どもたちにはさまざまな出来事が待っていることでしょう。けれども、こども園の先生方に育てていただいた個性を発揮し、自信を持って新しい世界へ羽ばたいてくれることを願っています。



宮城学院中学校 3年
生徒会長
山田 杏さん

中学校生活で一番印象に残っているのは、やはり生徒会執行部の活動です。行事の企画運営を高校生徒会の先輩方に教えていただきながら行ってきました。企画をする時は意見を出し合うことが基本ですが、なかなか思うように発言することができない中学校執行部を先輩方はいつもリードして下さいました。たくさんの出会いと一緒に何かを創り上げていこうとするパワーは、私を大きく成長させてくれたと思います。

運動会もまた印象に残っている行事です。応援合戦ではおそろいのTシャツにチームカラーのポンポンでオリジナリティを出しダンスを競い合うのですが、チームリーダーの私はみんなの意見をまとめ振り付けなどを考える役目でした。完成するまで何度も話し合い、大変でしたが、皆が一つにまとまった時の充実感は何とも言えないものでした。

これから高校に進学しますが、これまでの学びを糧とし女子高ならではの発信力を発揮していけたらと思っています。

日ごとに春の足音が増してくる3月。今年もたくさんの園児、生徒、学生たちが、ここ宮城学院を巣立っていきます。今月卒業を迎え、新たなステージへと進む皆さんに、宮城学院で過ごした日々の思い出や卒業後の抱負をうかがいました。



「クラスメートがくれる
“とびっきりの笑顔”が私のビタミン剤！
得意な英語を活かし
イベントクリエイターになるのが夢。」

高校3年間を通して、ずっと生徒会の執行部員の役割を担ってきました。執行部の魅力は何といっても行事を企画し準備して進めた後に大きな達成感を味わえることです。どうしたら行事を成功させることができるか、お互いにアイディアを出し合いそれがうまくいった時、クラスメートから感謝の言葉やとびっきりの笑顔をもらっていると、皆のために頑張った良かったと心から思えました。

また、高1で国際交流でニュージーランドへ行き、高2でホストファミリーとして留学生の受け入れを行った経験から、将来はこれまで培った英語力にさらに磨きをかけイベントクリエイターになりたいと思っています。これから高校を卒業して、新しいステージへ一歩を踏み出しますが、日本と海外との懸け橋になれるよう頑張ります！



宮城学院高等学校 3年
生徒会長
石井 満彩さん



「さまざまな現場実習で
対応力の大切さを実感。
栄養教諭をめざして、学び続けたい。」

宮城学院の学びの中で、大学3年生の時に実施した3カ所の実習が私の心境に大きな変化を与えました。小学校、保健所そして病院とそれぞれ違う現場で臨機応変に対応することの大切さを肌で感じ、管理栄養士としての心構えや技術を学ぶことができました。また授業で積み重ねてきた基礎知識が実習現場で結びつく実感を得ることができました。

実習では、悩んだり苦労したりすることも多々ありましたが、共に学ぶ仲間が存在が大きな助けになりました。意見を交換しながら切磋琢磨し合えたのは大切な思い出です。

春からは会社に就職して新たなスタートを切ります。給食を皆さんに提供するだけでなく、「食」の大切さや栄養の知識なども積極的に伝えていける管理栄養士を目指したいです。また、私には将来栄養教諭になりたいという目標があるため、就職してからも学び続ける姿勢を忘れずに、専門職として自信と誇りが持てるような仕事をしていきたいと思っています。



宮城学院女子大学
食品栄養学科 4年
土屋 舞さん



「学生時代の多くの経験を活かし、
地域に寄り添える学芸員になりたい！」

私の夢は、地域の文化や歴史、芸術を守り伝える学芸員になることです。そのきっかけは大学三年生の夏に学芸員課程の一環で訪れた、気仙沼のある美術館で活動されている学芸員さんと出会ったことでした。地域における美術館としての役割を追求し、学芸員として奮闘するその姿に憧れ、これまで学芸員実習や外部のボランティア活動に積極的に参加し、広い視野を持ちながら、充実した学びの時間をこれまで過ごしてきました。特に、震災と文化財に関心のあった私は、宮城歴史史料ネットワークの史料保全ボランティア活動にも参加し、地域の文化を守ること、そしてそれを未来に伝えることの大切さを学びました。これまでの活動で自らが学んだことを、学芸員としての活動を通して発揮していきたいです。



宮城学院女子大学 大学院
人間文化学専攻
井上 瑠菜さん



＊「2017年度宮城学院総合防災訓練」を実施しました

2017年10月19日（木）10時から2017年度宮城学院総合防災訓練を実施しました。宮城学院では、3年前から大学・中高・こども園による総合的な防災訓練を実施し、今年で4回目となります。地震発生直後に自分の身を守る「シェイクアウト訓練」から始まり、今年度は、昨年11月に開設した「森のこども園」について、園児の避難経路、未満児の避難方法や大学との連携のあり方を検証するプログラムを取り入れて行われました。全学院の約2,000人が参加した総合防災訓練を通して、キャンパス内の相互協力を確認し、防災への意識を新たにする一日となりました。訓練の様子は各メディアにも取り上げられ、同日の東北放送ニュース、仙台放送ニュース、また翌日の河北新報朝刊にも記事が掲載されました。



＊「クリスマスチャペルコンサート」が開催されました

12月2日（土）「クリスマスチャペルコンサート」が本学院礼拝堂で開催されました。～歌、ヴァイオリン、ヴィオラ・ダ・ガンバとチェンバロによる待降節の調べ～と題して、小池まどか（ヴァイオリン）、エマニュエル・ジラル（ヴィオラ・ダ・ガンバ）、梅津樹子（チェンバロ）、高橋絵里（ソプラノ）らによる素晴らしい演奏が響き渡りました。



＊「第4回宮城学院クリスマスマーケット」が開催されました

12月17日（日）「第4回宮城学院クリスマスマーケット」が開催されました。礼拝堂をはじめ、大学講堂、講義館などキャンパス内の各会場ではさまざまなマルシェやワークで来場者をお迎えし、約200名の学生スタッフが運営に携わりました。中でもおすすめプログラムとして紹介されたハンドベル演奏や今年新たに発足した聖歌隊によるミニコンサートでは会場の礼拝堂が満席となり、小さな子どもからお年寄りまで清らかな音色や歌声に耳を傾けました。本学OG黒田弘子氏の司会で進められた閉会式では、一人一人に手渡されたキャンドルに火が灯され、全員で「きよこのよる」を賛美し礼拝堂は祝福に包まれました。



MG TOPICS

中学校・高等学校

＊「中高クリスマス礼拝」が行われました

12月16日（土）、宮城学院女子大学講堂において中高クリスマス礼拝が行われました。中高ハンドベルクワイアの前奏ののち、PAGEANT「聖誕」が始まると講堂は厳かな雰囲気になりました。キリストの誕生を祝って行われるキャンドルサービスでは次々と灯りがともされ、会場いっぱいに光の海が広がりました。「大きな冒険と小さな冒険」と題した小西望先生の説教、オーケストラの演奏と共に講堂に響き渡るメサイアの賛美は来場者を魅了しました。最後に会場の中高生並びに来場者全員でハレルヤコーラスを賛美し、祝福に満ちた礼拝を献げることができました。



＊「運動会を、もう2回は見たい!!」

9月23日(土)は運動会でした。日々の練習は芝生の北園庭、本番は天気は左右されない大学体育館で行いました。はいはい競技の0歳児、親子で走った1歳児、直線を走った2歳児、3、4歳児はコーナーを走り、5歳児はリレーをしました。6年間の子どもの成長を実感できる運動会になりました。

年齢ごとのダンスもあったのですが、ソーランを踊った5歳児は特に素晴らしかったです。踊りの中で全員の顔が上がり、上げた指先に子ども達の視線がきちんと集まり、「ドッコイショ、ドッコイショ」と声をかけながらしゃがむシーンは見事でした。運動会終了後、保護者の方が「今年の運動会は子どもの成長が見えて感動しました。」「もう2回は見たい!」涙で赤くなった目で話されていました。家へ帰ってから子ども達はたっぷり褒めてもらったようです。

＊「大きな森の音楽会&カフェ」

10月7日(土)に「大きな森の音楽会&カフェ」があり、こども園で開かれている「森の音楽会」の拡大版でした。プロの音楽家3人の演奏を親子で聴いてもらい、休憩中に子ども用のヴァイオリンやピアノ、チェロの体験もさせていただきました。今回は(500円)を保護者に負担して頂き、休憩中に美味しいクッキーとコーヒーが紅茶子ども達にはバックの麦茶が出ました。職員や保護者の受付ボランティアも企画し、本格的なクラシックの音楽を赤ちゃんから大人まで楽しめる素敵な時間になりました。



＊2017年度「保護者のための就職支援セミナー」を実施しました

去る11月4日、本学キャリア支援センターにて、保護者の皆様を対象に「保護者のための就職支援セミナー」を実施しました。

全体セミナーは「知っておきたい保護者としての就活支援のあり方」と題し、昨今の社会情勢と就活事情にも精通し、多数講演実績のある、株式会社アフターリクルーティング 代表取締役 池谷昌之氏にお越しいただきました。

最近の新卒就職状況や企業が求める人材像を解説するとともに、保護者の皆様にどのように学生と関わるべきか、などについてお話ししていただきました。

また、内定を得た4年生(ジュニアアドバイザー)によるインタビューでは自身の就職活動を振り返り、企業の採用状況と学生の就職活動の今、そして保護者がどのように自分をサポートしてくれたか、などについて話してくれました。

個別相談会も実施し、大学の取組みや個別データの提供も行いました。保護者の皆様からは、「一番知りたかった親としてのサポート方法について知ることができた」「自分の世代の就職活動との違いがわかった」、などの感想をいただきました。連休の中日にも関わらず大変多くの皆様にご参加いただきました。ありがとうございました。



＊宮城学院同窓会コース会開催報告

同窓会には、専攻した学科をまとめた10のコース会があり、それぞれのコース会に所属する卒業生が中心になって独自の特色ある活動を行っています。今年度はこれまでに英文(6月17日)、音楽(8月28日)、家政・食品栄養・生活文化(9月28日)、高校(10月1日)の4つのコース会が開かれました。

英文コース会は同窓会館を会場に、講師に本田康典名誉教授をお迎えして、現在の宮城学院の基盤を作られた小田信士元学院長先生の思い出と学校の歴史を話して頂きました。音楽コース会は仙台国際ホテルを会場に、副島謙二特任教授のクラリネット、松山裕美子特任准教授のピアノ、仙フィルメンバで卒業生の熊谷洋子さんのバイオリンのアンサンブルが催されました。

家政・食品栄養・生活文化コース会は仙台国際ホテルを会場に、世界遺産アカデミー認定講師・世界遺産検定マイスターの雲野右子氏を講師としてお迎えし、数々の世界遺産を映像も交えながら話して頂きました。高校コース会の会場はサンブラザ。久しぶりにお目にかかる担任の先生を囲んで大賑わいで、口々に「宮城を卒業して良かった」「宮城が懐かしい」と語り合っている姿が印象的でした。どのコース会も心に残る素晴らしい企画で、参加者は母校の教育に感謝し、若い日を懐かしみながら有意義な時間を共に過ごしました。

2018年度開催予定のコース会は「会報みやぎ」第59号に掲載し、コース毎に個別のご案内もいたします。皆様のご参加をお待ちしております。





客室乗務員になる夢を叶えたデディオニシオさん

シンガポール航空のCA（客室乗務員）になって約7年。大崎市に生まれ育った私が日本を飛び出し、海外に住んで国際結婚をするとは自分も家族も想像していませんでした。

きっかけは、高校時代に参加した宮城学院女子大学のオープンキャンパスでした。英語が好きで、英語を使う仕事を志していた私は、「外国人の先生とコミュニケーションをしながら自然と英語が身につく大学」という先輩たちの話にひかれて入学を決めました。そして航空会社のCAという仕事を知った

のは、同期の友人が目指していたから。アメリカ留学のホストファミリーとの交流を通して海外生活への憧れはふくらみました。また、シンガポール航空の機内で出会ったCAに手紙を書くと、宮城学院の卒業生だという丁寧な返事をいただき、勇気がわいてきました。進路をCA一本にしようとしたときは、父から無理だと反対されましたが、「とりあえず頑張ってみよう」という気持ちで、2、3年経って周りの見えてくると「いちいち落ちこまないで、勉強だと思って楽しもう。強くなりたいと生き残れない」と考えられるようになりました。

一人では、前に進めません。ネイティブの先生方から生きた英会話を学び、コミュニケーション力を高められた宮城学院のキャンパスライフ。同じ屋根の下で共同生活をしながら励まし切磋琢磨し合えた同期。落ち込んだときに話を聞いてくれる

宮城学院時代の明るくポジティブな友人たち。「助かりました、ありがとう」というお客様の笑顔、すべてが支えになっていきます。人に恵まれたから、憧れのCAになり、仕事を続けることもできました。

もし環境が変わっても英語を使う仕事がしたいと思います。もつと英語力を磨くと同時に、丁寧さや謙虚な気持ちといった日本人らしさも大事にしていきたいです。

デディオニシオ 希さん

2010年度 宮城学院女子大学学芸学部英文学科卒業
シンガポール航空 客室乗務員

宮城県大崎市生まれ。宮城県古川学園高等学校を卒業。2007年4月、宮城学院女子大学学芸学部英文学科に入学し、2011年3月卒業。2011年4月、シンガポール航空に就職、国際線の客室乗務員として勤務。シンガポール在住、2017年8月に米国人と結婚。趣味は料理、旅行。中学・高校時代はバスケットボール部に所属。

人との出会いを大切に目標へ一直線 憧れのCAとして世界へ羽ばたく

さまざまな分野で活躍する宮城学院の卒業生を紹介します。

”未来予想図“にない取締役役に 挑戦を積み重ねて会社と共に成長



社内懇親会にて

た。そして自然な流れで東通企画の代表取締役になったのが30代で当時は経営者とは何かもわかっていなかったと思います。しかし毎朝会社に着くまでの約30分間、父と車内でディスカッションを重ね、先を予測して何をすべきか考える。といった経営者として大切なことをたくさん学びました。

現在、61周年を迎える東京通信機株式会社と合併して誕生した東通インテグレート代表取締役を務めています。昨今、働き方改革が各企業の重要課題となっております。弊社の事業は、企業で働く人達の「生産性の向上」「情報共有」「業務効率化」を実現し、大幅なコストダウンの為に業種・業態に合わせたICT（情報通信技術）の導入をご提案・ご支援いたしております。例えば、いつでもどこでも仕事ができる「動くオフィス」、離れた拠点間を繋ぐ「TV会

議システム」、人の代わりに事務処理を行う「ロボットの販売」等、情報通信技術の進化により更に成長する分野であると確信しております。最先端の素晴らしい商品をもっていても、お客様に選ばれないと仕事は始まりません。いいお客様と出会い、心を動かすアプローチができたときに醍醐味です。経営者としては、会社が目指す方針を社員が理解し、自ら行動に移してもらえた瞬間は「やった！」と飛び上がりたい気持ちになります。会社の展望として、社員が70歳まで働ける基盤、この会社で働いて良かったと思える環境を作っていきたい。

これからは女性も男性も関係ありません。例えば、主婦の方は家計、子育て、家事、住宅など、家庭をマネージメントしている優秀な個人事業主です。女性もがもつ資質も感性も生かせるので、本気で会社と向き合えば、誰でも活躍はできると思っています。

モットーは「花は色、そして香り。人は心、そして思いやり」という言葉。宮城学院で身につけたキリスト教にもとづく礼儀や思いやりを大事にしています。ビジネスの厳しい世界でも、人としてどうすべきかを考えると、いい方向に向かう気が致します。

私は鈍感なのか、壁にぶつかった記憶はあまりありません。この先は未知数ですが、行動する足は止めずにいたいと思います。失敗しても、落ち込んだままではいるのではなく、対策を講じることで、次が見えてくるはず。積み重ねてきた努力は今、そして明日につながると思っています。

佐藤 博美さん

1985年度 宮城学院女子大学学芸学部家政学科卒業
東通インテグレート株式会社 代表取締役社長

宮城県仙台市生まれ。1986年3月、宮城学院女子大学学芸学部家政学科を卒業。1986年4月、東通企画株式会社に入社。1994年に常務取締役、2001年に代表取締役に就任。2008年、グループ会社の旧東京通信機株式会社と合併し東通インテグレート株式会社に社名変更。代表取締役副社長に就任。2011年、代表取締役社長に就任。趣味はゴルフ。

教育環境整備資金募金者芳名

【2017年10月1日～2018年1月31日受付分】
 ◎募金総額 18,454,400円(2018年1月31日現在)

一般 金20,000円 上野 武夫様	金10,000円 匿名1名様	同窓会 金100,000円 阿部 俊子様	役員・教職員・旧教職員 金10,000,000円 匿名1名様	金80,000円 匿名1名様
大学 金100,000円 匿名1名様 金20,000円 佐々木 帆南様 佐藤 克己様 佐藤 和彦様 菅原 政喜様	高等学校 金20,000円 阿部 信子様	金30,000円 宮城学院女子大学音楽科OG有志様 匿名1名様	金1,550,000円 宮城 光信様 金300,000円 嶋田 順好様 金100,000円 本田 辰雄様 太田 富美子様	金30,000円 伊藤 佳代子様 匿名1名様 金10,000円 正司 純子様
	中学校 金10,000円 匿名1名様			こども園 金20,000円 匿名1名様

皆様のご理解とご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

退職される方々

今年度末をもって、次の方々が宮城学院から退職されます。これまでのご尽力に心より感謝すると共に、今後のご活躍・ご健勝をお祈りいたします。(敬称略)

大学		中学校・高等学校	事務局
菊池 勇夫 (一般教育部 教授) 中島 望 (現代ビジネス学科 教授) 生野 桂子 (教育学科 教授) 兼子 良久 (現代ビジネス学科 准教授) 篠原 秀典 (教育学科 助教)	升沢 京子 (一般教育部 副手) 木幡 智佳子 (教育学科 副手) 大槻 真奈美 (教育学科 副手) 大山 和子 (食品栄養学科 助手)	栗和田 朋美 (教諭) こども園 佐々木 和 (教諭)	我妻 幸子 菊田 敏秀 平形 智子

【今回の表紙】森のこども園

2016年秋、創立130周年記念事業の一環として整備された幼保連携型こども園・森のこども園が開園。設計は伊東豊雄建築設計事務所が担当しました。

園舎は一枚の起伏のある大きな屋根で覆われ、ドームの様にこどもの居場所を包み込みながら、建物全体を繋ぎ、こども園の一体感を生んでいます。屋根は、20×90mmの木材をしながら幾層にも重ねることで、軽やかな構造を実現しており、木材が編み込まれた様子は、揺りかごの中に居る様な安心感を与えています。

